

## 蛇行し、伏流しながら、キリストが流れていく

牧師 山本 護



『ウォールデン／森の生活』を著した H.D.ソロー(1817～62)は、今日でいうエコロジストとして知られています。原生林での冒険的な暮らしというより、米国東部の町からそう遠くないウォールデン湖畔での晴耕雨読・自給自足は、昔も今も多くの人を森の生活へ招きました。あまり知られていませんが、ソローの『市民の反抗』は岩波文庫にも編まれた古典で、悪しき市民政府に対し、良心に従って非暴力で公然と違反する行為を

提唱しています。抗議集会などで時折耳にする「市民的不服従／civil disobedience」という言葉は本書が起源です。

1846年、ソローは奴隷制度を容認するマサチューセッツ州への人頭税を拒否して投獄されます。ところが代わりに税金を払う人があり、厄介払いの体で出所させられてしまう。ソローは数集めに奔走する市民政府には期待せず、徒党を組まず、個々人の良心による行動を説きましたが、「市民的不服従」を実行する者は現われなかった。ソローにとって森の生活は、己が思想を実践し、人間として美しく丁寧に生きるに適う選択でした。

ソローの思想と行動規範は蛇行しながら流れて半世紀後、南アフリカで弁護士をしていたガンジーに届きます。『森の生活』からは機械に支配されない生き方を、『市民の反抗』からは非暴力不服従という具体的な手法を見出した、と彼は言う(自叙伝)。インドに帰国してからのガンジーの歴史的な働きについては誰もが知る通りです。

伏流していたソローの水脈は1世紀後、同国の M.L.キング牧師に湧き出します。キングは言う。「人種的隔離という悪しき制度のバス会社はボイコットで痛手を受けるだろう。だが根本的な目的は悪との協力を拒絶すること。僕はこの時ソローの『市民の反抗』について考え、学生時代この本にひどく心動かされたことを思い出した(自由への大いなる歩み)」。そしてガンジーについてはこう語っている。「ガンジーが教えてくれた非暴力(ソロー由来の)を通して働くキリストの愛の教えこそが一番強力な武器(同書)」。

インド独立運動や米国公民権運動の成就是、ある意味で抑圧者(の良心)にとっても勝利でした。キング牧師の言葉に倣えば「非暴力を通して働くキリストの愛の教え」が味方も敵も消滅させた。愛の教えはソローに森で自給自足をさせ、キリストの非暴力不服従を隣りびとに広げたガンジーとキング牧師は、イエスのごとく殺されました。キリストの流れに従っている八ヶ岳伝道所。その裏の林をゆっくり歩きながら、キリストを生きた三人の面影を探しました。Ω